

浅草寺五重塔に使用

カナメ社開発、防災面評価

喜多方産「チタン瓦」

4月に完成が予定されている東京都台東区の浅草寺五重塔の屋根改修に、社寺建築用の金属屋根などを製造する喜多方市のカナメ喜多方工場(本社・宇都宮市)の「チタン瓦」が使われている。軽量で耐久性の高いチタン瓦は地震が起きても、瓦の落下や建物の倒壊につながる危険性が低く、防災面でも注目を集めている。

同社のチタン瓦は2006(平成18)年に開発され、経済産業省の日本ものづくり大賞などに輝いた。

同社によると、チタンは軽い、強い、さびないなどの優れた特性があり、航空



土瓦と浅草寺五重塔の屋根改修に使われているチタン瓦を手にする安藤工場長

宇宙や建築、土木、医療など幅広い分野の製品に適用されている。チタン瓦は厚さ0.3ミ、一枚の重さ約90g。重さは銅板の約2分の1、粘土瓦の約20分の1で、建物に掛かる負担が軽減されるとい

腐食に強い屋根の素材を求めていた浅草寺は、07年に宝蔵門、10年に本堂の屋根を粘土瓦から同工場製のチタン瓦にふき替えた。1973年に再建された五重塔は老朽化が進み、東日本大震災では頂上部分の「相輪」が落下するなどの被害



チタン瓦に改修される浅草寺五重塔

が出た。改修で使われるチタン瓦は約5万7千枚で、本瓦特有の「いぶし銀」のような風合いがある。下地の木工事は喜多方市の遠藤建築店が担当し、年間約3千万人の参拝者が訪れる観光名所で「会津のものづくり力」を発揮している。

「浅草寺効果」で注文が増えている」と安藤修一工場長(63)。浅草寺に採用されたことをきっかけに、これまで全国各地の寺社など100カ所以上にチタン瓦を納入した。安藤工場長は「日本には美しい瓦の文化が根付いている。ただ、

地震が多い地域では安全性の確保も重要」と話し、チタン瓦の需要拡大を期待している。

「麦とホップ」刷新
来社し発売をPR
イメージガール川辺さん
2017年サッポロビールイメージガールの川辺優紀子さん(25)は6日、福島民友新聞社郡山総支社を訪れ、刷新してコクに磨きをかけた新ジャンルのビール「麦とホップThe go